

第16回 EASTS スラカルタ会議

The 16th EASTS Conference in Surakarta, Indonesia

高井元樹¹ 河上翔太² 宮内弘太³

Motoki TAKAI, Shota KAWAKAMI, and Kota MIYAUCHI

1 はじめに

EASTS (Eastern Asia Society for Transportation Studies: アジア交通学会) は、東アジア13の国・地域から交通分野の専門家が集まり、1994年11月に設立された。1995年にフィリピンのマニラで第1回会議が開催されて以来、これまでにEASTS地域内で16回の会議が開催されてきた。これらの国際会議は、学術・実務の双方を含む交通分野において、様々なテーマにおける専門家の交流の場となっている。本稿では、2025年9月1日から4日にかけてインドネシアのスラカルタで開催されたEASTSの第16回国際会議を紹介する。

2 第16回国際会議の概要

第16回国際会議のテーマは、「Harnessing Local Wisdom and Green Technology to Build a Sustainable Transport Sector in Eastern Asia: 東アジアにおける持続可能な交通部門構築に向けた地域の知恵とグリーン技術の活用」である。このテーマのもと、643編（査読441編、非査読202編）の論文が投稿された。第16回会議では、以下に示すように13個の多様なトピックが設けられている。Closing ceremonyで公開されたトピックごとの投稿数を比較すると、今回は「J: 交通事故・安全」が最も多かった。



写真-1 会場の様子（執筆者撮影）

表-1 トピックと投稿数

トピック	投稿数
A : 交通一般	78
B : 交通経済・政策	62
C : 交通需要分析・予測	68
D : 物流・貨物輸送	21
E : 地域計画・環境	51
F : 環境・気候変動	39
G : 公共交通・非動力交通	58
H : 道路設計・維持管理	28
I : 道路交通工学	30
J : 交通事故・安全	121
K : 航空・水上交通	22
L : 新技術・新交通産業	21
P : 実務的テーマ	31

初日の基調講演では、インドネシアのDudy Purwagandhi運輸大臣が約17,000の島から構成される島嶼国家インドネシアにおける交通・物流政策の課題と将来戦略について講演した。講演では、過積載・過大寸法車両対策や物流の効率化、地方・離島の接続性向上に向けた取組が紹介された。また、招待講演として、BOKU大学のYusak Octavius Susilo教授による「Design thinking and co-creation in harnessing local wisdom and green technologies in building a sustainable transport and mobility system」、広島大学の力石真教授による「Beyond Trips and Flows: Toward Human-Centric Transport Systems」、リーズ大学のRonghui Liu教授による「Data-Driven Discoveries in Spatial Analysis of Urban Mobility Networks」、オックスフォード大学のTim Schwanen教授による「Towards User-Centric and Culturally Resonant Cycling in 15-Minute Cities」の4つの講演が行われた。さらに、3日間にわたってポスターセッションと口頭発表セッションが行われ、4日目にはテクニ

¹ 交通・社会経済部門 研究員 ² 交通・社会経済部門 研究員 博士（工学） ³ データサイエンス室 研究員 博士（工学）



写真－2 ポスターセッション（執筆者撮影）

カルツアーが開催された。

当研究所からは3名の研究員が参加し、発表を行った。河上研究員は、第6回東京都市圏パーソントリップ調査を用いて、移動支援を必要とする高齢者の交通行動特性を分析した論文を発表した。宮内研究員は、異常運転検知手法を用いた運転安全管理への適用可能性を検討した論文と、運転支援に用いられる異常運転検知技術の発展動向を整理し、ドライバーの多様性や個人差を考慮した新たな異常運転検知技術の方向性を提案した論文を発表した。高井研究員は、コミュニティベースのライドシェアについてのSP調査を通じて、利用者のマッチングに対する 선호と利用意向を分析した論文を発表した。



写真－3 発表の様子（執筆者撮影）

表－2 当研究所職員の発表論文

投稿者	タイトル
河上、寺部	Analysis of Transportation Behavior Characteristics of Elderly People Who Require Transportation Assistance - Based on the Person Trip Survey in the Tokyo Metropolitan Area -
宮内、高田、豊田、齋藤	Applicability of Anomalous Driving Detection Methods to Driving Safety Management

宮内、高田	Review of Development Trends of Anomalous Driving Detection Technologies Providing Driving Support
高井、力石、藤原	Users' Matching Preferences and Use Intentions in a Community Ridesharing System

※下線は当研究所職員

3 おわりに

EASTSでは、アジア各国の研究者・実務者による多様な発表が行われており、日本国内ではあまり見られない、国・地域特有の交通課題に着目した研究も数多く見られ、国際学会ならではの視点や学びを得ることができた。一方で、同様の課題を抱えるアジアの国も多く、各国が抱える状況や問題意識、政策・技術的知見を国際的に共有し、相互に学び合うことの重要性を改めて実感した。また、アジア各国から数多くの参加者が集っており、国際的な交流が活発に行われていた。特に、日本からの研究者や学生も多く参加している印象であった。

会議期間中は、市内の移動にGrabやBluebirdなどの配車アプリを活用した。アジア各都市で広く普及しているこれらのサービスは、スラカルタのような地方都市においても使い勝手よく利用できた。目的地の入力から乗車・決済まで一貫してアプリ上で完結できるため、海外渡航者にとっても非常に便利であった。また、市内を移動する中でバイクの交通量が多いことが印象的であった。車道はもとより歩行者空間においてもバイクの姿が見られ、車両同士の車間距離が非常に短い中での走行や、自動車の間をすり抜けるような場面も日常的に見受けられた。こうした現地の交通実態から、今回の会議で「交通事故・安全」が関心の強いトピックとなっていたように思われる。

なお、第17回EASTS国際会議は、2027年9月27日から30日にかけてオーストラリアのアデレードで開催される予定である。

参考文献

- 1) EASTS : <https://easts.info/>
- 2) EASTS 2025 WEB サイト : <https://easts.uns.ac.id/>